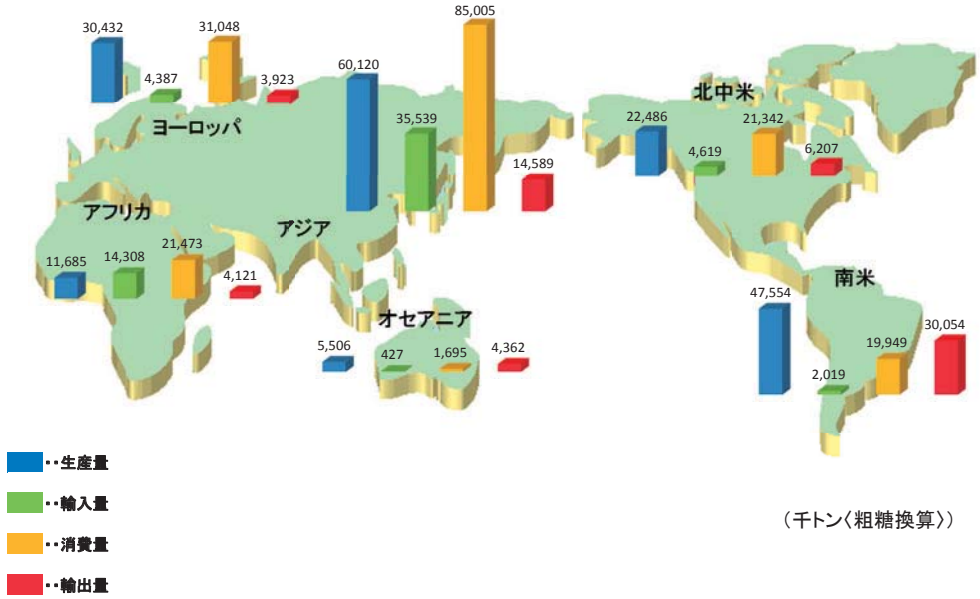
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　丸吉　裕子

1．世界の砂糖需給（2017年９月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,September 2017」
（※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）
注１：年度は2016年10月～翌９月。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか５カ国を含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17（2017年９月予測）	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4
2017/18（2017年９月予測）	67,586	191,794	61,212	183,953	63,637	73,002	39.7

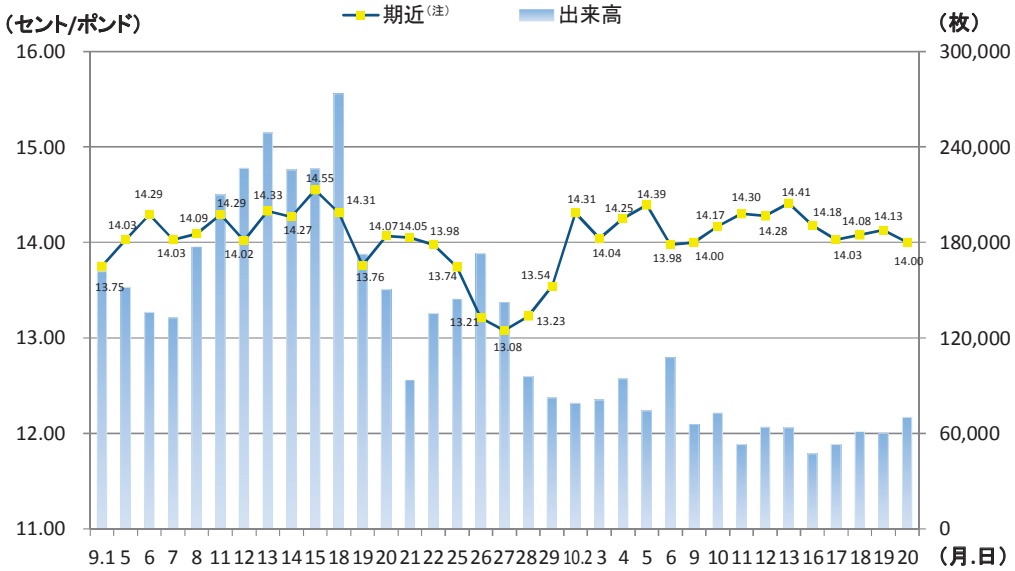
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, September 2017」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2014/15年度および2015/16年度は推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年１月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年10月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」　：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001579.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001580.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（9/1 ～ 10/20）
～レアル安などから1ポンド当たり13.08セントに下落も、その後はおおむね14セント台前半で推移～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：９月は期近10月限、10月は期近３月限。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近10月限）の2017年９月の推移を見ると、インド政府が粗糖30万トンの低関税輸入を許可したことやブラジル通貨レアルが米ドルに対し高値となったことが押し上げ要因となり、６日には１ポンド当たり14.29セントに上伸した。７日は、インドの砂糖生産量が回復するとの見通しから同14.03セントへ下落したが、大型ハリケーン「イルマ」によるカリブ海諸国や米国フロリダ州などの砂糖生産地域への影響の懸念から、11日には同14.29セントに上昇した。その後、ブラジルでのエタノール需要の高まりから上伸し、15日には約１カ月半ぶりの高値となる同14.55セントの値を付けた。19日には、ブラジルで適度な降雨が予想されたことから同13.76セントに下落した後、20日に同14.07セントに反発したが、米ドル高レアル安が進行したことなどから、27日には同13.08セントに下落した。そして、29日には同13.54セントに値を戻し、10月限は納会した。

３月が限月となる10月に入ると、２日は同14.31セントの値を付け、３日は反落したが、５日には同14.39セントに上昇した。これには、９月末のEUにおける生産割当廃止に伴う供給量の増加が後ろ倒しになるとの見通しから、ロンドン白糖相場が上昇したことに引きずられたことが背景にある。その後は、世界的な供給増見通しに抑えられ、６日に同13.98セントへ反落した後、14セント台前半で推移し、20日には同14.00セントとなった。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年10月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）
生 産 量：６億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：4080万トン（同0.7%増）
輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する大手民間調査会社）の2017年10月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、サトウキビの新植が進まず単収が減少したため、生産量は６億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表２）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、製糖企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合を増やしたことに加え、製糖歩留まりが向上したことなどから、4053万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同15.2%増）とかなりの増加が見込まれている。こうした増産見込みに伴い、輸出量も過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少するものの、生産量は単収の増加から、６億4763万トン（同1.5%減）となると見込まれている。

砂糖生産量は、4080万トン（同0.7%増）と前年度並みが見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）(注1)が８月24日に発表した2017/18年度生産見通しによると、サトウキビ栽培面積は877万ヘクタール（同3.1%減）とやや減少するものの、１ヘクタール当たりの収量が73.7トン（同1.5%増）と見込まれるため、サトウキビ生産量は、６億4634万トン（同1.7%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。しかし、一方で、砂糖生産量は、3939万トン（同1.8%増）と過去最高に達すると見込まれている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）(注2)が発表した2017年４～９月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は４億6717万トン（前年同期比1.9%減）とわずかに減少した。砂糖生産量は2924万トン（同4.9%増）とやや増加した。一方、エタノール生産量は、1942万キロリットル（同2.8%減）とわずかに減少した。輸出量も含めたエタノールの販売量は、1279万キロリットル（同9.7%減）となり、含水エタノール(注3)の国内販売量は、ブラジル国営石油公社ペトロブラ

スがガソリン卸売価格を６月末に引き下げたことから、710万キロリットル（同12.7％減）とかなり減少した。

現地報道によると、ブラジル清涼飲料水協会とブラジル食品産業協会は９月中旬、保健省に対し、会員企業の製造する飲料に含まれる糖類含有量の低減に向けた自主的な計画を提出した。これによると、今後４年間で、飲料100ミリリットル当たりの糖類含有量の上限値を16.0グラムから10.6グラムに引き下げるとしている。同計画は、国民の肥満防止を目的に、糖類を含む飲料への課税額の引き上げが検討されていることを踏まえて提出されたが、同省は、引き上げについて引き続き検討する意向を示している。

また、トウモロコシ由来エタノールの生産振興を目的とする全国組織が９月中旬、設立された。2017年、マットグロッソ州にブラジル初となるトウモロコシ由来エタノールの専用工場が完成している。

（注１）主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農牧食糧供給省直轄の機関。

（注２）ブラジル全体の砂糖生産量の９割を占める中南部地域を区域としている団体。

（注３）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の２種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を５％程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100％としたもので、ガソリンに混合して利用される。

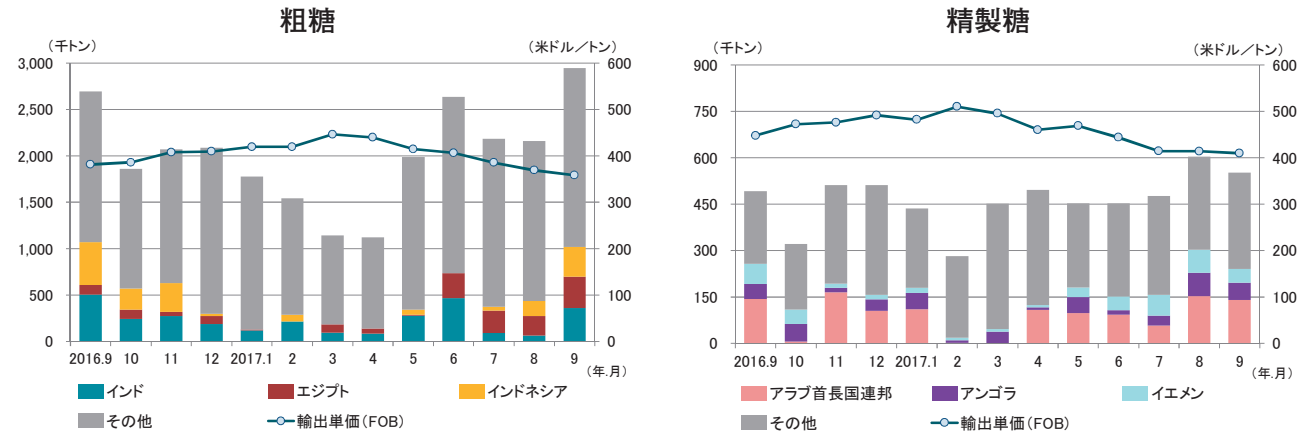
表２　ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3
サトウキビ生産量		658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	40,534	15.2	40,800	40,800	0.7
	輸入量	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	11,700	▲ 0.8	11,900	11,900	1.7
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	7.7	12.4	9.3	9.3	20.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）
生 産 量：３億672万トン（同14.5%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：2200万トン（同19.6%減）
輸出量： 200万トン（同51.3%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は３億672万トン（同14.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。また、砂糖生産量も2200万トン（同19.6%減）と、製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表３）。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、2016年６月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して６カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。また、2017年４月中旬には、貿易業者に対して設定している砂糖の保有在庫数量の上限の設定期限を同年４月末から10月末まで延長することを公表した。これらにより、砂糖輸出量は、200万トン（同51.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、国際価格の下落や中央政府が先ごろ粗糖50万トンの無税輸入を許可した(注)ことにより、輸入粗糖を原料とする精製糖生産の利益が増加するとみられていることなどから、250万トン（同31.3%増）と大幅に増加すると見込まれている。なお、砂糖の輸入関税は７月上旬、40%から50%に引き上げられている。

現地報道によると、政府は、９月および10月における製糖企業による砂糖の保有在庫数量の上限を、９月が2016/17年度生産見込量の21%、10月が同８%とすると発表した。

また、現地報道によると、中央政府は９月、さらに粗糖30万トンについて25%の低税率での輸入を許可することを明らかにした。同措置は、９月から10月にかけて、特に干ばつの被害が大きく、在庫が不足している南部地域の製糖企業が対象とされ、10月中旬までに精製、販売することとされている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加も、輸出量は大幅減の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は３億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖生産量は、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、2720万トン（同23.6%増）と大幅な増加が見込まれている。主要生産州を見ると、ウッタルプラデシュ州は1020万トン（同16.3%増）、マハラシュトラ州は680万～740万トン（同2.1～2.3倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。ただし、現地報道によると、マハラシュトラ州やカルナタカ州で10月中の多雨が予測されていることから、これらの州では、工場の稼働開始が例年よりも半月程度遅れ、11月ごろになると懸念されている。

砂糖輸出量は、期首在庫量が低水準になると見込まれていることから、生産量が増加するものの、110万トン（同45.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

現地報道によると、タミルナド州サトウキビ生産者協会は10月中旬、州内の24工場で過去４年間に生産者に支払うべき合計138億4000万ルピー（260億1920万円〈９月末日TTS：１ルピー＝1.88円〉）のサトウキビ代金が未払いとなっていることについて、州政府に対し、法的な措置を講じるよう要請している。

（注）砂糖生産量が、干ばつにより大幅に減少し、消費量を下回ると見込まれる中、マハラシュトラ州の製糖企業により再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどを受けて実施された措置である。

表３　インドの砂糖需給の推移

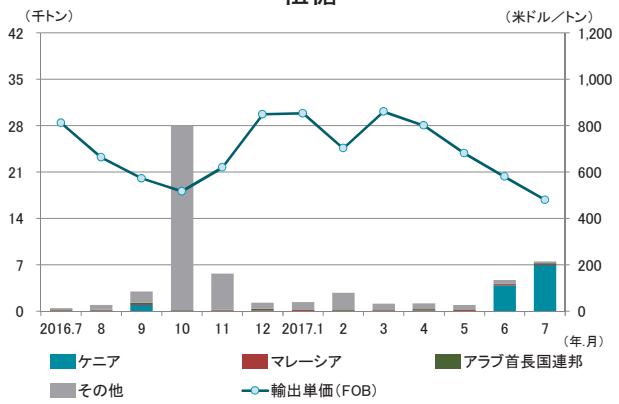
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2	4,978	4,978	5.0
サトウキビ生産量		341,200	362,333	358,891	306,720	306,720	▲ 14.5	337,690	337,690	10.1
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,100	22,000	▲ 19.6	27,200	27,200	23.6
	輸入量	1,349	1,303	1,904	3,174	2,500	31.3	2,000	2,000	▲ 20.0
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	26,304	▲ 2.6	27,500	27,500	4.5
	輸出量	2,742	2,608	4,105	2,167	2,000	▲ 51.3	1,100	1,100	▲ 45.0
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	4,654	4,047	▲ 48.5	5,254	4,647	14.8
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	17.7	15.4	▲ 47.1	19.1	16.9	9.8

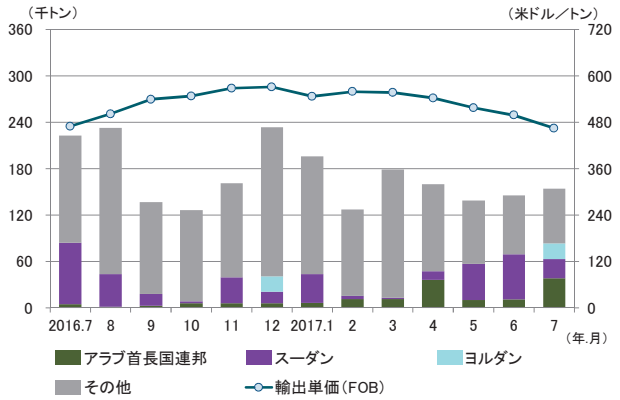
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

中　国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】
収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）
生 産 量：１億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1010万トン（同6.7%増）
輸入量：　392万トン（同36.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌９月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が１億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表４）。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育に伴う単収の増加が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。地域別に見ると、特に、主要生産地である内モンゴル自治区で増加している。これらにより、砂糖生産量は、1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）が発表した2016/17年度の生産実績報告によると、砂糖生産量は、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、精製糖換算で929万トン（同6.8%増）とかなり増加した（図３）。このうち、甘しゃ糖は824万トン（同5.0%増）、てん菜糖は105万トン（同23.2%増）と、ともに増加している。

中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、2017年１月時点で合計約65万トンが市場に放出された。現地報道によると、2017年９月に広西チワン族自治区で33万トン、その他にも37万トンが売り渡されたとみられている。CSAは、2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいた。

砂糖輸入量は、392万トン（同36.8%減）と見込まれている。2017年５月22日から2020年５月21日までの３年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率を、95%まで引き上げたことによる(注)。枠外税率は、毎年度５%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されていることから、中央政府は、今後も国境での監視を強化するとしている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸入量ともに大幅増の見込み

2017/18年度は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール（前年度比5.5%増）とやや増加し、生産量は単収の増加に伴い、１億3700万トン（同8.3%増）とかなりの増加が見込まれている。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール（同30.9%増）、生産量は1100万トン（同42.8%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別では、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1210万トン（同19.8%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、期首在庫量が低水準にある上、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれていることから、575万トン（同46.7%増）と大幅な増

加が見込まれている。

（注）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

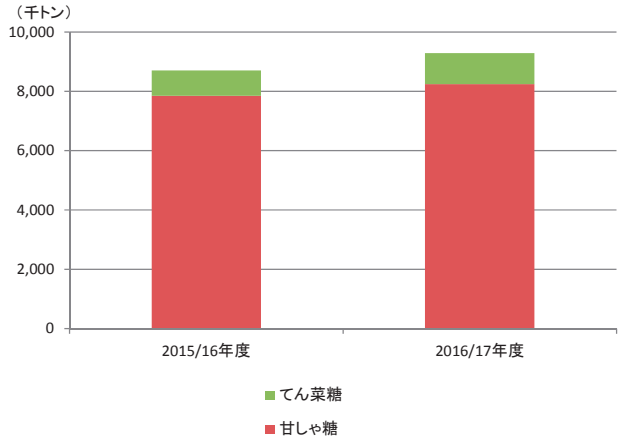
表４　中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	1,927	1,927	5.5
サトウキビ生産量		125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	136,998	136,998	8.3
てん菜収穫面積		182	139	135	149	149	10.0	195	195	30.9
てん菜生産量		9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	11,000	11,000	42.8
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,097	10,097	6.7	12,100	12,100	19.8
	輸入量	4,054	5,354	6,199	3,921	3,921	▲ 36.8	5,750	5,750	46.7
	消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	16,739	▲ 3.1	17,500	17,500	4.5
	輸出量	51	64	167	112	112	▲ 33.1	80	80	▲ 28.5
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	2,680	2,680	▲ 51.4	2,950	2,950	10.1
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	16.0	16.0	▲ 49.8	16.9	16.9	5.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

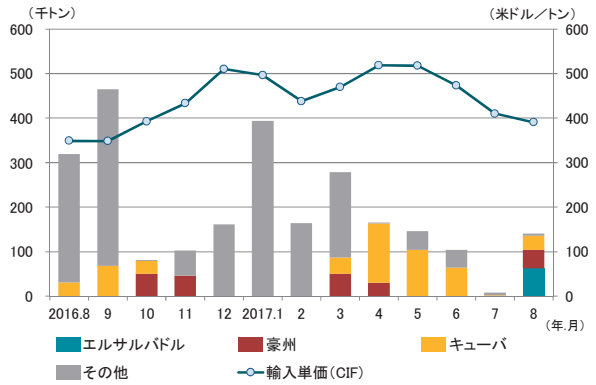
図３　中国の砂糖生産実績



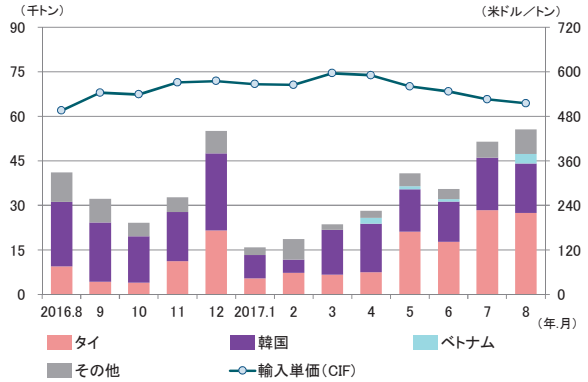
資料：CSA
注：精製糖換算。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

E　U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）
生 産 量：１億1795万トン（同12.2%増）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：1694万トン（同12.8%増）
輸入量：　312万トン（同16.7%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌９月）は、てん菜の収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8増）、生産量は１億1795万トン（同12.2%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表５）。2017年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約２割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上が見込まれていることなどから、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。増産による域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、312万トン（同16.7%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は10月６日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2016/17年度のてん菜生産量は１億1182万トン（同9.8%増）と、直近10年間で最低水準となった前年度からかなり増加し、砂糖生産量は精製糖換算で1684万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸入量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のてん菜収穫面積は、159万ヘクタール（前年度同）と見込まれている。生産量は、単収の増加から、１億2241万トン（前年度比3.8%増）と、やや増加が見込まれている。砂糖生産量は1699万トン（同0.3%増）、砂糖輸入量は313万トン（同0.1%増）と、ともに前年度並みが見込まれているが、今後、各国の生産状況が確認され次第、修正される可能性がある。

一方、前述の欧州委員会の短期需給見通しによると、生産割当の廃止に伴い、2017/18年度のてん菜生産量は、てん菜栽培面積の拡大と単収の増加が見込まれることから、１億3111万トン（同17.3%増）、砂糖生産量は2013万トン（同19.5%増）と、ともに大幅に増加し、輸入量は150万トン（同34.9%減）と、前年度の３分の１程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量が増えるとともに、生産割当の廃止に伴い、WTOの裁定により設けられた輸出上限が撤廃されることから、280万トン（同2.2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU価格の動向に左右されるとみられる。

欧州委員会は、砂糖業界は生産割当の廃止決定後、利益を獲得する機会に備えて体制を整えていたと称賛するとともに、特に製糖企業にとっては世界市場で取引を拡大する好機であると呼び掛けた。一方、欧州砂糖実需者委員会（CIUS）(注) は、同割当の廃止が砂糖のサプライチェーン全体にとって重要な転機になると評価するも、継続される甘しゃ糖輸入に対する各種制限については、できる限り早く是正されるべきと主張している。なお、生産割当の廃止は、異性化糖にも適用される。

（注）食品や飲料などを製造する欧州の1万5000社以上の砂糖実需者を代表する委員会。

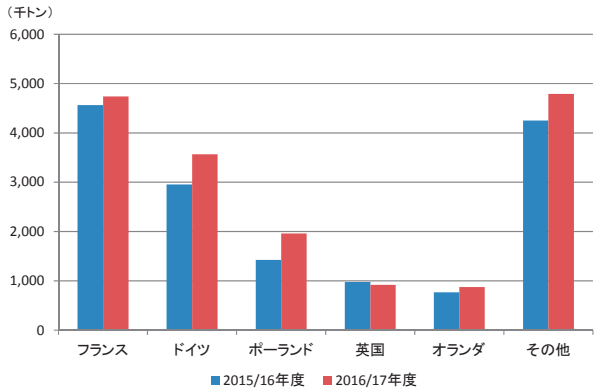
表５　EUの砂糖需給の推移

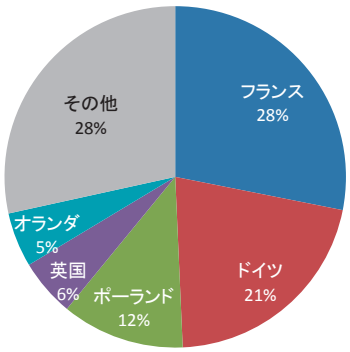
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	1,592	1,592	0.0
てん菜生産量		108,979	131,009	105,162	118,426	117,948	12.2	118,903	122,405	3.8
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	16,938	12.8	16,989	16,989	0.3
	輸入量	3,944	3,456	3,750	2,965	3,124	▲ 16.7	2,968	3,127	0.1
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	18,740	0.1	18,759	18,759	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,252	1,339	▲ 11.1	1,253	1,341	0.1
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	9,046	9,117	▲ 0.2	8,990	9,151	0.4
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	48.3	48.7	▲ 0.3	47.9	48.8	0.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合





資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2017年６月時点での予測値。
注３：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。
注４：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2017年10月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この２カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

豪　州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）
生 産 量：3360万トン（同7.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：531万トン（同7.5%増）
輸出量：400万トン（同7.6%増）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（７月～翌６月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3650万トン（同4.8%増）とやや増加が見込まれている（表６）。しかし、砂糖生産量は、５～６月に収穫されたサトウキビの製糖歩留まりが、３月に襲来したサイクロンの影響により低下していることから、494万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている(注)。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、372万トン（同10.4%減）とかなりの減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともにかなり増加の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、サイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3360万トン（同7.9%減）とかなりの減少が見込まれている。砂糖生産量は、531万トン（同7.5%増）とかなりの増加が見込まれているが、サイクロンの被害状況によっては、今後下方修正される可能性がある。輸出量は、生産量の増加に伴い、400万トン（同7.6%増）とかなりの増加が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が９月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.3%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、１ヘクタール当たり収量が92トン（同6.8%減）とかなりの減少が見込まれていることから、砂糖生産量は、480万トン（同0.1%減）と前年度並みが見込まれている。輸出量についても、前年度並みの405万トンと見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は、2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3340万トンと、主産地の荒天を反映して９月上旬時点の予測から65万5000トン下方修正している。

現地報道によると、クイーンズランド州バンダバーグ地区は10月、度重なる豪雨に見舞われたことから、サトウキビ圃場（ほじょう）の浸水被害が発生し、収穫作業の遅延が懸念されている。

豪州政府は９月21日、インドネシア政府が豪州産粗糖の輸入関税引き下げに合意したことを発表した。これによると、インドネシアの豪州産粗糖の輸入関税は、現行の８%から５%に引き下げられ、同国最大の粗糖輸入先国であるタイと同水準となる。豪州砂糖産業連盟（ASIA）は、関税の引き下げにより、豪州産粗糖のインドネシア向け輸出量は、従来の35万トン程度から125万トン以上に拡大できると見込んでいる。

（注）豪州の砂糖年度は７月～翌６月とされているが、例年製糖が開始される５～６月の数量は、前年度に含まれる。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		329	363	381	393	393	3.2	400	400	1.8
サトウキビ生産量		27,136	32,360	34,827	35,500	36,500	4.8	35,556	33,604	▲ 7.9
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,052	4,940	4,940	▲ 2.2	5,312	5,312	7.5
	輸入量	159	170	76	139	116	52.9	110	110	▲ 5.4
	消費量	1,345	1,337	1,298	1,280	1,280	▲ 1.5	1,355	1,355	5.9
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,970	3,719	▲ 10.4	4,000	4,000	7.6
	期末在庫量	1,162	1,088	766	596	824	7.5	662	890	8.0
	期末在庫率	86.5	81.4	59.0	46.5	64.4	9.1	48.8	65.6	2.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

タ　イ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）
生 産 量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1030万トン（同2.7%増）
輸出量：　707万トン（同9.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みが見込まれる一方、長引く干ばつの影響で単収の減少が見込まれることから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表７）。

しかし、砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上などから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、707万トン（同9.5%減）とかなりの減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はやや減少の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4%増）、生産量は１億500万トン（同12.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。

砂糖生産量は、天候に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることなどから、1200万トン（同16.5%増）と大幅な増加が見込まれている。一方、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、680万トン（同3.7%減）とやや減少が見込まれている。

タイ製糖協会が10月中旬に発表した見通しによると、一部の地域で洪水による影響が見られるものの、2017/18年度のサトウキビ圧搾量は、前年度から10%増の１億400万トンと見込まれている。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正（注1）に向けた手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で７：３の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当（注2）、および政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。

現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）は10月上旬までに、砂糖の販売割当の廃止や砂糖価格の市場原理に沿った監視の実施については決定したが、サトウキビ取引価格の算定方法については関係者との協議を続けており、

2017/18年度のサトウキビ圧搾開始までの決定を目指している。

また、現地報道によると、農業協同組合省は先ごろ、2017～2021年の国家有機農業開発戦略を策定した。同戦略は、企業グループと政府が共同で実施している有機栽培サトウキビ・安全なサトウキビ生産協力プロジェクトの推進により、有機栽培によるサトウキビ圃場を拡大し、年間４万トンのオーガニックシュガーを輸出するとしている。

（注１）タイ政府は2016年４月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補塡（ほてん）金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月３日、ブラジルとの２国間協議の場に、同年10月中旬に砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）によると、改革案は現在、閣議レベルで吟味され、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却されている。改革案は近いうちに閣議へ再提出される予定となっている。

（注２）タイ産砂糖は、Ａ割当と呼ばれる国内供給向けとＢ割当およびＣ割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

（注３）タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である３省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

表７　タイの砂糖需給の推移

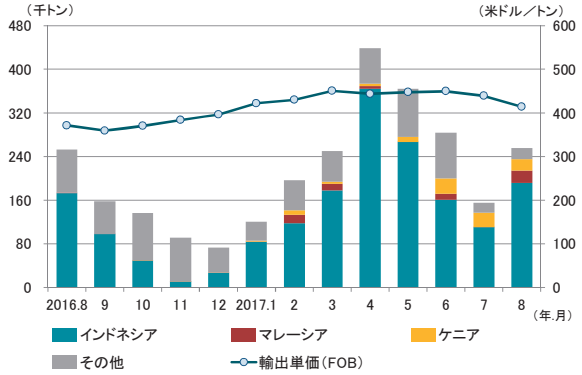
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（9月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（9月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2	1,540	1,540	9.4
サトウキビ生産量		100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1	105,000	105,000	12.9
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,299	10,299	2.7	12,000	12,000	16.5
	輸入量	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	6,839	7,065	▲ 9.5	6,800	6,800	▲ 3.7
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,467	4,241	▲ 5.9	6,167	5,941	40.1
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	127.6	121.2	▲ 5.9	176.2	169.8	40.1

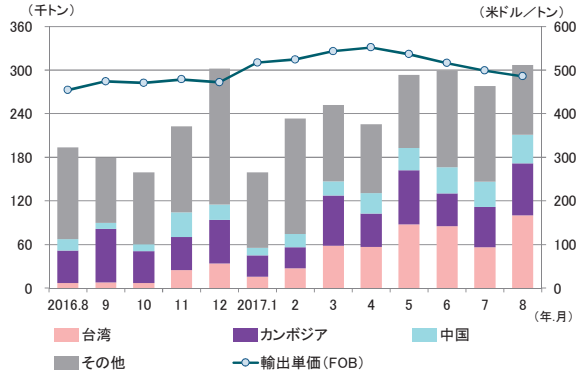
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

南アフリカ

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：31万ha（前年度比5.9%増）
生 産 量：1719万トン（同5.9%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：180万トン（同10.2%増）
輸出量： 30万トン（同37.9%増）

2016/17年度の砂糖生産量はやや減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、29万ヘクタール（前年度比4.2%減）、生産量は1623万トン（同4.9%減）と、ともにやや減少が見込まれている（表８）。

砂糖生産量は、2014/15年度から続く干ばつの影響による製糖歩留まりの低下から、163万トン（同5.4%減）とやや減少が見込まれている。前年度から砂糖の消費量が生産量を上回る状況が続き、在庫量が減少していることから、輸出量は22万トン（同29.1％減）と大幅に減少し、過去最低を記録すると見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸出量は大幅増の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、31万ヘクタール（前年度比5.9%増）、生産量は1719万トン（同5.9%増）と、ともにやや増加が見込まれている。干ばつ被害から回復し、平年並みの降雨が予想され、サトウキビが順調に生育することで、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、砂糖生産量は180万トン（同10.2%増）とかなりの増加が見込まれている。これに伴い、輸出量も30万トン（同37.9%増）と大幅に増加するものと見込まれている。

一方、現地報道によると、南アフリカ砂糖協会は、数年にわたる干ばつの影響で、閉鎖や稼働期間の短縮を余儀なくされた工場が複数あり、砂糖生産量が５割以上減少した地域もあることから、輸出量が干ばつ前の水準まで回復するには、数年を要すると見込んでいる。

現地報道によると、業界団体の反対を受けて延期されていた糖類を含む飲料への課税(注)は、2018年４月の開始が予定されている。ただし、課税額については未定となっており、業界団体が３年ごとの見直しを求めている一方、政府は複数年をかけての増額を検討している。

（注）２月の南アフリカ財務省の発表によると、課税対象は、100ミリリットル当たり４グラム以上の糖類を含む飲料で、この飲料に含まれる糖類10グラム当たり0.21ランド（２円〈９月末日TTS：１ランド＝10円〉）が課税される予定とされていた。

表８　南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17（7月予測）	2016/17（10月予測）	前年度比（増減率）	2017/18（7月予測）	2017/18（10月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		325	325	302	289	289	▲ 4.2	306	306	5.9
サトウキビ生産量		18,000	17,239	17,067	16,234	16,234	▲ 4.9	17,188	17,188	5.9
砂糖	生産量	2,485	2,239	1,728	1,634	1,634	▲ 5.4	1,800	1,800	10.2
	輸入量	812	474	470	749	749	59.3	475	475	▲ 36.6
	消費量	2,255	2,200	2,220	2,190	2,190	▲ 1.4	2,200	2,200	0.5
	輸出量	796	769	307	218	218	▲ 29.1	300	300	37.9
	期末在庫量	889	633	304	280	280	▲ 8.0	55	55	▲ 80.4
	期末在庫率	39.4	28.8	13.7	12.8	12.8	▲ 6.8	2.5	2.5	▲ 80.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, October 2017」